

土着天敵を活用したカキ害虫の防除体系

近年、カキの害虫フジコナカイガラムシ、カキノヘタムシガ、ハマキムシ類などによる被害が増加しています。特にフジコナカイガラムシは難防除害虫で、果実の吸汁による火ぶくれ症や、排泄物に発生する菌によるすす病の原因となります。福岡県農業総合試験場では、フジコナカイガラムシの天敵に影響の少ない殺虫剤を利用することにより、土着天敵を活用した、カキ害虫の防除体系（IPM体系）を開発したので、その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. フジコナカイガラクロバチは、フジコナカイガラムシに寄生する有力な土着天敵です。カキ害虫殺虫剤の中で、IGR剤、BT剤は、フジコナカイガラクロバチに対して殺虫効果はほとんどなく、天敵として温存します。
2. フジコナカイガラムシに対しては、越冬幼虫が活動を開始する4月下旬と、第1世代幼虫発生時期である6月上旬および中旬に、IGR剤により防除し密度低下を図ります。7月以降は、薬剤の効きにくくなった齢の虫が混在し、また、薬剤がかかりにくい場所に隠れるため、薬剤防除の効果は低いので、温存・増殖した土着天敵による防除を図ります。
3. カキノヘタムシガに対しては、第1世代幼虫ふ化期である5月下旬、および第2世代幼虫ふ化期の7月下旬、8月下旬に主にIGR剤により防除します。ハマキムシ類やイラガに対しては9月にIGR剤により防除します。

4. この土着天敵を活用した防除体系では、慣行防除体系に比べ、フジコナカイガラムシによる被害は少なく、薬剤散布回数も2回程度削減でき、薬剤費は約10%削減できます。

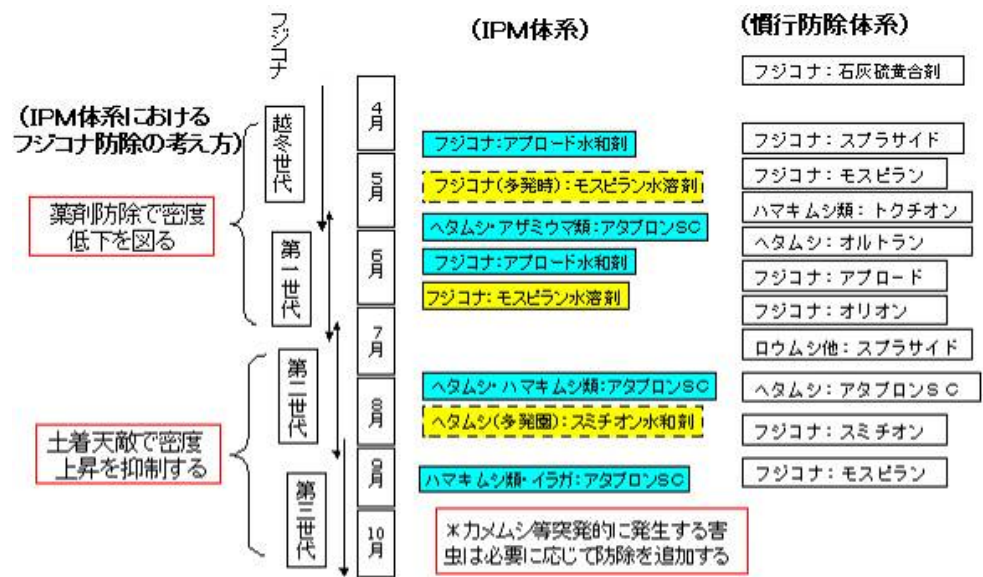


図 土着天敵を活用したカキの害虫防除体系（IPM体系）
青色はIGR剤、黄色はネオニコチノイド剤または有機リン剤

☆ 活用面での留意点

土着天敵による防除効果を上げるには、6月までの薬剤防除により第1世代のフジコナカイガラムシの密度を十分に下げておく必要があります。詳細については、福岡県農業総合試験場病害虫部虫害チーム（電話：092-924-2938）にお問い合わせください。

（農林公庫 技術参与 後藤 明彦）